国語科における「言語能力」の整理

国語科における言語能力		
【知識及び技能】 〇言葉の働き〇話し言葉と書き言葉〇漢字〇語彙〇文や文章〇言葉遣い〇表現の技法〇音読，朗読 【思考力，判断力，表現力等】「書くこと」領域 〇題材の設定，情報の収集，内容の検討〇構成の検討〇考えの形成，記述〇推敲〇共有		
第１・２学年	第３・４学年	第５・６学年
〇題材の設定，情報の収集，内容の検討		
・経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。	・相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。	・目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。
〇構成の検討		
・自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	・書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。	・筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えること。
〇考えの形成，記述		
・語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。	・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。	・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ・引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
〇推敲		
・文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。	・間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。	・文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整えること。
〇共有		
・文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。	・書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。	・文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。

言語能力とその育成方法

言語能力	育成方法	育成方法の詳細
〇構成の検討 〇考えの形成，記述	・既習の方略を選択させる。	・既習の方略を想起させ，適していると判断したものを選択し，考えたり書いたりしながら良し悪しを判断させる。
〇推敲	・他者の意見を取り入れ調整させる。	・自分の表現を自己評価できるように交流活動を設定し，場合によっては自分の表現を練り直させる。
〇共有	・自らの学びを整理させる。	・伝えたいことを表現することと，「読みの観点」がどのように効果的だったかを自己評価させる。

実践の概要　～第３学年「仕事のくふう，見つけたよ」における実践～

第３学年１組　国語科学習指導案

１　単元名　８歳からのハローワーク『仕事のくふう，見つけたよ』（光村図書　３年上）

２　単元の構想

(1)　単元について

本学級の児童は，説明的文章『こまを楽しむ』の学習において，「初め・中・終わり」と「問いと答え」という基本構成を学習している。どちらも大筋での理解はできているが，新たに出会った文章を自力で分析することができるまでには至っていない。加えて，総合的な学習の時間において調べ学習をまとめる様子を見ていると，これらの基本構成を用いて表現する力までは身に付いてない。

また，他教科における児童の調べ学習の様子を見ていると，多くの児童は本やインターネットを用いた一人調べの手段を選んでおり，他者と協働的に調べようとしたり，専門家に質問をしたりして調べる児童は一部に限られている。本単元では調べ学習を行う時間を設定している。他者と協力して，社会に関わろうとする児童を目指したい。

(2)　単元について

本単元は，社会科「私たちの暮らしと町で働く人々（日本文教３年）」と算数科「調べたことをグラフや表に整理しよう（日本文教３年）」との教科横断的な大単元である。「８歳からのハローワーク」を作るという言語活動を設定し，自分が興味をもった仕事について，本やインターネット，見学，電話によるインタビューなどを通して調べていく。その後，算数科で学んだグラフや表の知識・技能も必要に応じて活用しながら，報告文の形でまとめていく。その際，特に「中」の部分に何をどの順序で書くか，どのような資料を添えると伝わりやすいかを意識させたい。

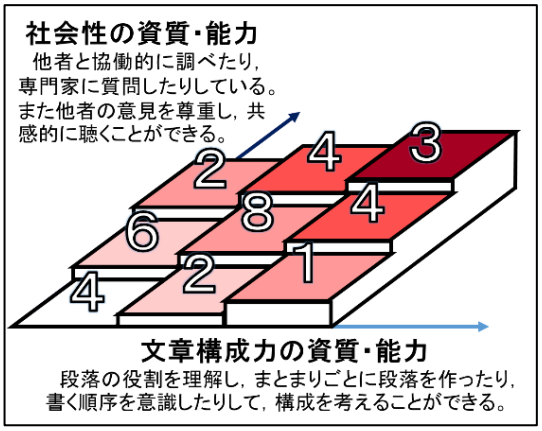


図１　資質・能力の指標

本単元における児童の実態と指導事項を加味した資質・能力の指標は，**図１**の通りである。数字は，各欄に該当する児童の人数を表している。

(3)　指導について

単元の導入では，『１３歳からのハローワーク』を紹介しながら，子どもたちが興味をもっている仕事について，調べたことをまとめた「８歳からのハローワーク」作りという言語活動を提案する。そこから，どのように単元学習を進めたらよいか逆向き設計で計画を立てていく。

調べる段階では，社会科と教科横断的に進める。社会科では，スーパーマーケット見学などを通して佐賀市で働く人々の仕事やその工夫，願いや思いを学習する。しかし，それだけでは児童が個々にもつ調べたい仕事の欲求に答えられないため，本やインターネット，身近な親戚や場合によっては専門家へのインタビュー，見学などを行う。

構成を練る段階では，調べて分かったことを付箋に書き，それを並び替えたり，加除修正したりすることで，文章構成力の向上を図る。この時，事実と感想を視覚的に分類できるように，それぞれ黄色とピンク色の付箋に分けて書かせる。書く内容によっては，算数科で学習したグラフや表も活用して，資料の一つとして載せることを推奨する。また，出来上がった構成メモを友達同士で交流したり，４年生に見せてアドバイスをもらったりする時間を設定する。一年前に同じ学習を経験してきた上級生からのアドバイスは，構成を再検討する刺激になるとともに，社会性の向上にも好影響を与えると推測する。

構成メモをもとに報告文を書き，出来上がったものをまとめて冊子にする。最後は，インタビューを行った専門家や家族に見せることとし，明確な目的意識をもたせたい。

３　単元目標

「８歳からのハローワーク」を作る中で，付箋を並び替えて考えることで，文章の構成を考える力を高めることができる。

４　単元の評価規準

ア　段落の役割について理解している。【知・技】

イ　書く内容の中心を明確にし，まとまりごとに段落を作ったり，書く順序を意識したりして，文章の構成を考えることができる。【思・判・表】

ウ　他者と協働的に調べたり，専門家に質問したりしている。また，他者の意見を尊重し，共感的に聴こうとしている。【主】

５　単元の計画（全 12 時間）＋（社会科３時間）

１．単元目標の確認と学習計画作り（１時間）　２．調べ学習（４時間）＋（社会科３時間）

３．構成を練り，報告文を書く（本時　３／６時間）４．作品を交流し単元を振り返る（１時間）

６　本時の指導（８／12）

(1) 目標

付箋を並び替えたり，加除修正したりすることで，段落構成を考えることができる。

(2) 評価規準

イ　「初め・中・終わり」の「中」に書こうとしている内容が，まとまりごとに段落分けされていたり，事実と意見が区別されたりしている。【思・判・表】

(3) 展開

学習活動と児童の反応（□□□）	教師の働きかけと形成的評価（◆）
１　前時までの学習を振り返り，本時のめあてを立てる。（５分）	１　主体的な授業づくりの観点から，学習計画を基に，児童の言葉から本時のめあてを設定する。
めあて（例）　メモ用紙を友達と見せ合い，仕事のことがよりよく伝わるようにアドバイスし合おう。	
２　教師のモデルメモにアドバイスをする中で，その視点を整理する。（10 分） ・「初め」に書いている「問い」に答えていないよ。付け足さないといけない。 ・「終わり」に書かれていることが，「中」で説明されていないよ。 ・予想したことが，事実の黄色の付箋に書かれてあるよ。	2-(1)　教師のモデルメモは，陥りがちな課題に焦点化できるように，事実への偏重，初め・中・終わりに一貫性がない等のミスを仕込んでおく。 2-(2)　活動３に見通しをもてるように，児童のアドバイスを受けて，どのような段落構成を目指すとよいかの観点を整理する。 ◆　2-(1)に設定している構成上のミスに気付き，指摘できる。（発表，ペア対話の様子）【思・判・表】 B　構成上のミスに気付いている。 C→ 3-(2)に示す指標に基づいて個別支援を行う。
３　互いの構成メモを交流し，アドバイスをし合う。（20 分） ・「問いと答え」が合っていないよ。こんな言葉に変えるといいんじゃない。 ・「終わり」は「中」のまとめだから，「このように」ってつなぎ言葉を入れるといいと思うよ。 ・仕事の内容はよく書かれてあるけど，それに対してあなたはどう思ったの。 ・よく書けていてすごいね。だけど，この工夫の部分を詳しく知りたいな。 ・この説明は文だけだとよく分からないね。写真があるといいかも。 ・清書する時に，表を使って書けるとよさそう。	3-(1)　事実と感想を分けて視認できるように，それぞれ黄色とピンク色の付箋に書くように伝える。 3-(2)　段落の意識をもてるように，中に貼られた付箋をまとまりごとに分け，小見出しを付けるように指示する。 3-(3)　資質・能力の指標や形成的評価（◆）を基に，児童の実態に応じて次のような言葉かけ，個別支援を行う。

	社会性	文章構成力
C	社会性が高い児童や，気心が知れた児童と結び付ける。	「初め」と「中」が「問いと答え」の関係になるように，教師やA児童との対話で対応する。
B	相手のよいと思うところを見付けて伝えるように促す。	「中」と「終わり」の関係を問い，課題に気付くように誘導する。
A	相手のアドバイスを聞き入れる姿を称賛する。	よくできている構成を褒めて価値付け，他者に紹介するように促す。

	3-(3)　児童のアドバイスを板書したり，全体に向けて紹介したりして，アドバイスの視点を適宜高める。
４　構成メモを整理し，次時につなげる。（10 分）	４　板書や友達からのアドバイスを受けて構成メモを練り直そうという気持ちを高めるために，次時に４年生に見せることを伝えて発破をかける。

授業の実際と考察　～第３学年『仕事のくふう，見つけたよ』の実践を通して～

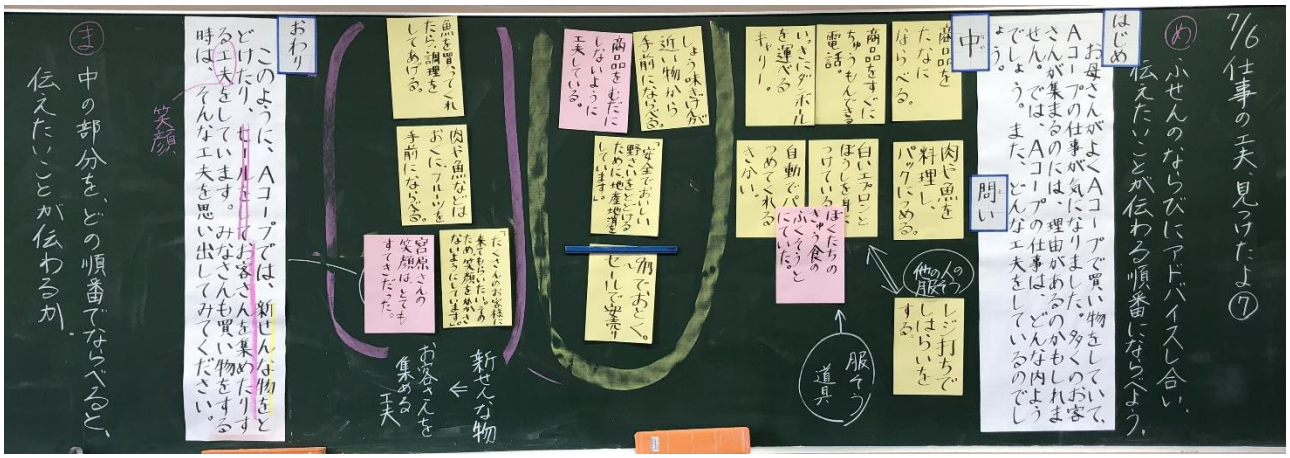


図２　本時の板書

(1)　既習の方略を選択させる手立て

本単元では，社会科と横断的に進めてきた仕事調べについて，クラス文集の形でまとめることを言語活動に設定して行った。既習の方略としては，『こまを楽しむ』で「初め・中・終わり」や「問いと答え」の基本構造を学んでいた。

本時に至る前には，これらの方略を確認する活動を行っている。例えば，わざと教師が間違ったモデル構成メモを示し，児童から「終わりはまとめる部分だから先生のメモは違うよ」といった発言を引き出した。その後，「初め・中・終わりが整った文の方が分かりやすいんだね。では，これを意識して書こうと思う人はいますか」と問うことで，既習の方略を使って考える意識を高めた。

(2)　他者の意見を取り入れ調整させる手立て

本時では，教師の構成メモを例に付箋の並び替えを行うモデル操作（**図２**）を行った後，児童同士で構成メモを交流する活動を行っている。ここでは大きく分けて，事例の内容，事例の順番，方略の正確さに関する交流が行われていた。

内容や順番に関しては，調べた事実と，自分の考えや思いのバランスを意識する大切さに触れたもの等である。

方略の正確さに関しては，「初め」の調べようと思ったきっかけと「中・終わり」の展開がつながっているかの確認やアドバイス等である（**図３**）。

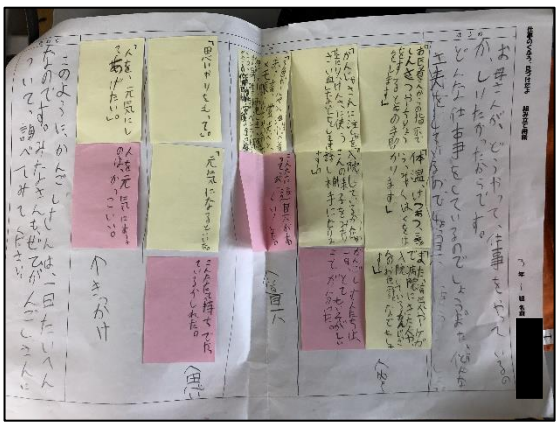
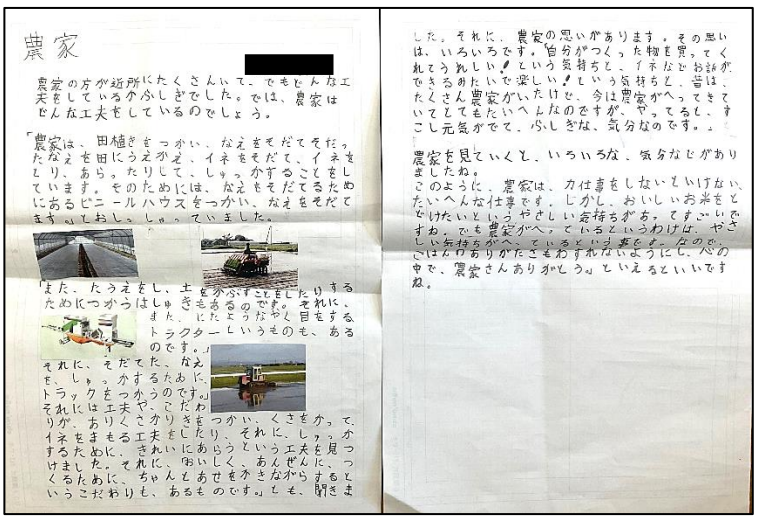


図３　児童Ａのワークシート例

(3)　自らの学びを整理させる手立て

本単元では，その後４年生との交流活動の場を設定している。清書した作文を４年生に見せ，良くできている部分を褒めてもらったり，より良くなるためのアドバイスをもらったりする活動である。

この活動の中で「初め・中・終わり」にまとまっていて分かりやすい等，褒めてもらったことは印象的だったようである。その後の振り返りにも，単元を通して意識してきた方略を使うことの良さに触れた記述が多く見受けられた（**図４**）。



農家

[redacted]

農家の方が近所にたくさんいて、そもそもどんな工夫をしているかふしぎでした。では、農家はどんな工夫をしているのでしょう。

「農家は、田植きをつかい、なえをそだてそだ。なえなり、イネを田にうえかえ、イネをそだて、イネをしぬたりしています。そのためには、なえをそだてるたためにあるビニールハウスをつかい、なえにます。ておし。しゅ。ていました。

「また、たうえをし、土を分析することもしたりするためにつかうはしゅきもあるのです。それに、ます。にたようなやくるのもトラクターしいうものです。」

それに、そだてた、なえもしゅっかするためにトラックをつかうのです。」

それが、あまもるエ夫をしたり、それに、しゅっかつそりイネをたためにきれいにあらうという工夫をしたりいうエ夫をしたりくるこだわりも、あるものです。」とも、聞きま

した。それに、農家の思いがあります。その思いは、いろいろです。「自分がつくった物を買ってくれてうれしい！という気持ちと、昔は、すてたいで楽しい！という気持ちと、今は農家がへってきてこしたりして元気がでて、ふしぎな、気分なのです。」

農家を見ていくと、いろいろな、気分などがありました。

農家は、力仕事をしないといけない、たいへんな仕事です。しかし、おいしいお米をとどけたいというやさしい気持ちがあ、てすごいですね。でも農家がへっているというわけは、やさしい気持ちがへっているとかい要をか、分のでこはなかありがたさをわすれないようにし、心の中で、農家さんありがとう。」といえるといいですね。

図４　完成した児童Ａの作文